
令和3年度
全国学力・学習状況調査

調査結果報告書
指導の改善策

旭川市教育委員会

はじめに

旭川市教育委員会では、児童生徒の確かな学力の育成に向け「令和３年度旭川市確かな学力育成プラン」を策定し、「学びを深める授業づくり」、「落ち着いた学級づくり」及び「望ましい学習習慣づくり」の３つの指導の重点を示して、各学校において、学力向上に向けた取組が共通の方向性で進められるよう努めております。

このような中、令和３年８月に、国から令和３年度全国学力・学習状況調査結果の提供を受け、本調査の実施要領に示されている「調査の目的」及び「調査結果の取扱いに関する配慮事項」などを踏まえ、この度、本市の結果を報告書として取りまとめました。

本報告書は、教科では、全教科の領域等別や設問ごとの正答や誤答の状況を把握し、成果と課題を明らかにするとともに、小中連携・一貫教育の視点から、９年間で身に付けさせたい力を明らかにしております。児童生徒質問紙調査では、質問項目について、国立教育政策研究所の分類をもとに、本市の３つの指導の重点ごとに整理し、回答状況や各教科の正答率と学習習慣・生活習慣との相関関係について分析しております。

また、課題が見られた設問や、改善が必要と考えられる質問項目等については、各学校の指導や取組の充実に資するよう、本報告書の中に「国語」、「算数・数学」、「学習習慣・生活習慣」に関する「指導の改善策」を掲載し、これまで分冊にしていた本報告書と指導の改善策を一冊にまとめ、先生方の使いやすさを重視した改善を図りました。さらに、課題となる設問については、児童生徒に確実な定着を図るため、授業等で活用できる「旭川市学力向上学習プリント集」を別冊資料として作成しました。

各学校においては、「令和３年度旭川市確かな学力育成プラン」を踏まえるとともに、本報告書及び、「旭川市学力向上学習プリント集」を十分に御活用いただき、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるとともに、学力向上に向け、継続的な検証改善サイクルを確立していただくよう期待します。

令和３年１２月

旭川市教育委員会教育長

黒 蕨 真 一

〔目 次〕

1 調査の概要	… 1
(1) 調査の目的	
(2) 調査の対象	
(3) 調査事項及び手法	
①児童生徒に対する調査	
②学校に対する質問紙調査	
(4) 調査日	
(5) 調査に参加した学校数，児童・生徒数	
2 教科に関する調査結果の概要	… 2
(1) 小学校各教科	
(2) 中学校各教科	… 3
(3) 小学校国語	… 4
(4) 中学校国語	… 5
(5) 小学校算数	… 6
(6) 中学校数学	… 7
3 教科に関する調査結果の課題の改善策	… 8
(1) 国語 課題の改善策 1～4	
(2) 算数・数学 課題の改善策 1～4	… 12
4 児童生徒質問紙調査結果の概要	… 16
(1) 質問項目の分類の考え方	
(2) 分析結果の整理	
(3) クロス集計	
(4) 旭川の子どもたちの概況	… 17
(5) 小学校	… 18
①「学びを深める授業づくり」について	
②「落ち着いた学級づくり」について	… 19
③「望ましい学習習慣づくり」について	
④「コロナ禍における学びを止めない対応」について	
(6) 中学校	… 20
①「学びを深める授業づくり」について	
②「落ち着いた学級づくり」について	… 21
③「望ましい学習習慣づくり」について	
④「コロナ禍における学びを止めない対応」について	
5 児童生徒質問紙調査結果の課題の改善策	… 22
(1) 生活習慣・学習習慣 課題の改善策 1～4	

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

- 小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒

(3) 調査事項及び手法

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

小学校：国語，算数

中学校：国語，数学

国語，算数・数学は，それぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に出題。

(ア)身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

(イ)知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

② 学校に対する質問紙調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査日

令和3年5月27日（木）

(5) 調査に参加した学校数，児童・生徒数

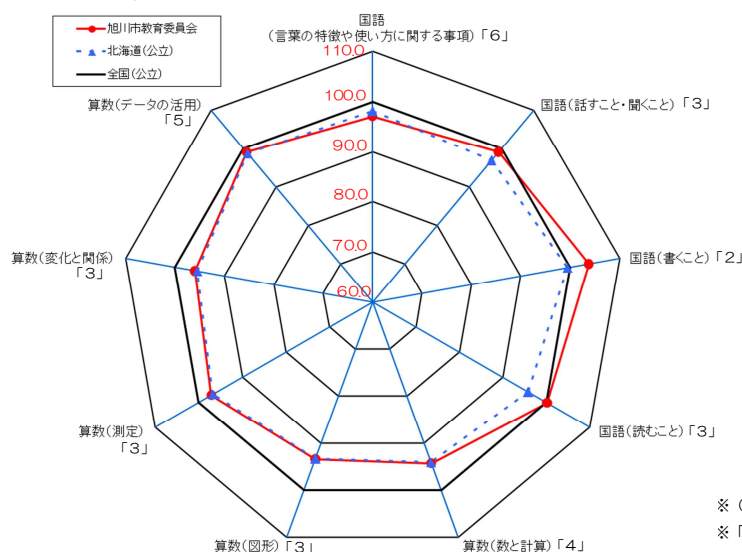
校 種	学校数	児童・生徒数
小学校	50校	2,238人
中学校	25校	2,317人

※児童・生徒数は，教科に関する調査及び質問紙調査のうち，回収した解答（回答）用紙が最も多かったもの

2 教科に関する調査結果の概要

(1) 小学校各教科

① 全教科領域別の状況



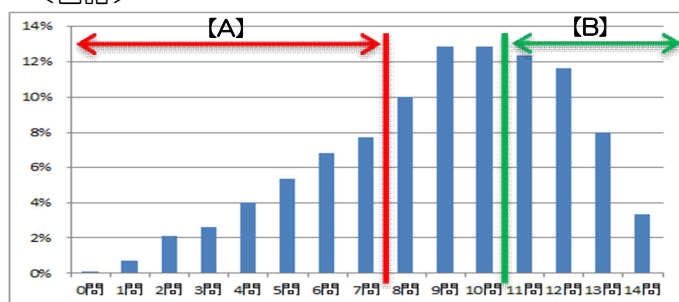
全9領域等のうち、国語の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域、算数の全ての領域において全道を上回っており、国語の「書くこと」、「読むこと」の2領域において全国を上回っている。国語の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の1領域において全道を下回っており、国語の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」、「話すこと・聞くこと」の2領域、算数の全ての領域において全国を下回っている。

※(本市の平均正答率)÷(全国(公立)の平均正答率)×100で算出
※「」内の数は、対象問題数(領域等が重複する問題もあります)

② 各教科の正答数の状況

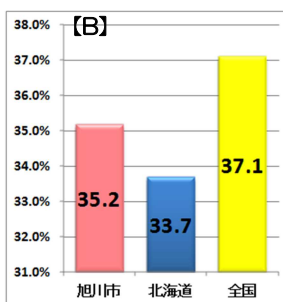
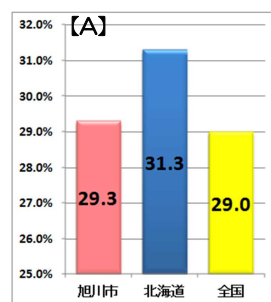
ア 正答数の分布

<国語>

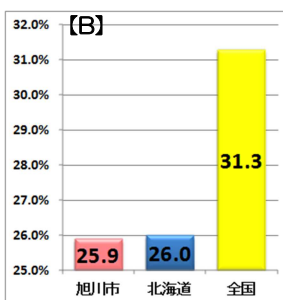
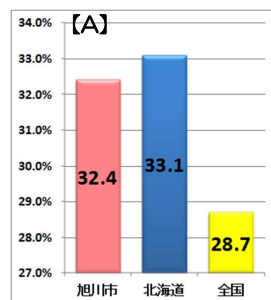
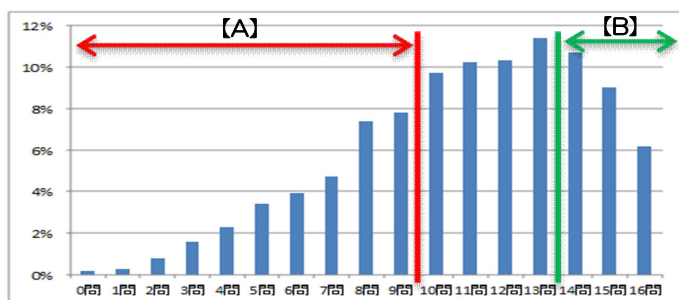


イ 正答数の少ない層の割合

ウ 正答数の多い層の割合



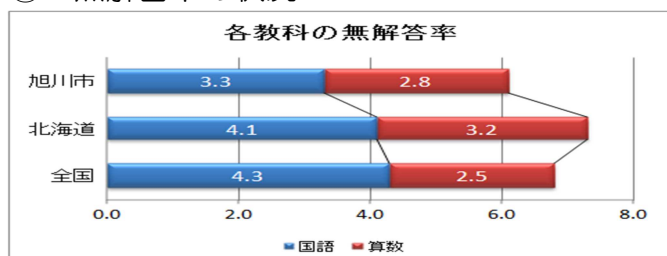
<算数>



- 国語の正答数の少ない層【A】に含まれる児童の割合は、北海道より2.0%少なく、全国より0.3%多い。正答数の多い層【B】に含まれる児童の割合は、北海道より1.5%多く、全国より1.9%少ない。
- 算数の正答数の少ない層【A】に含まれる児童の割合は、北海道より0.7%少なく、全国より3.7%多い。正答数の多い層【B】に含まれる児童の割合は、北海道より0.1%、全国より5.4%少ない。

※「正答数の少ない層」は、正答数を4つの階層に分けたうち、全国の「正答数の少ない層(下位25%)」と同じ範囲に含まれる児童の割合を表しています。
※「正答数の多い層」は、正答数を4つの階層に分けたうち、全国の「正答数の多い層(上位25%)」と同じ範囲に含まれる児童の割合を表しています。

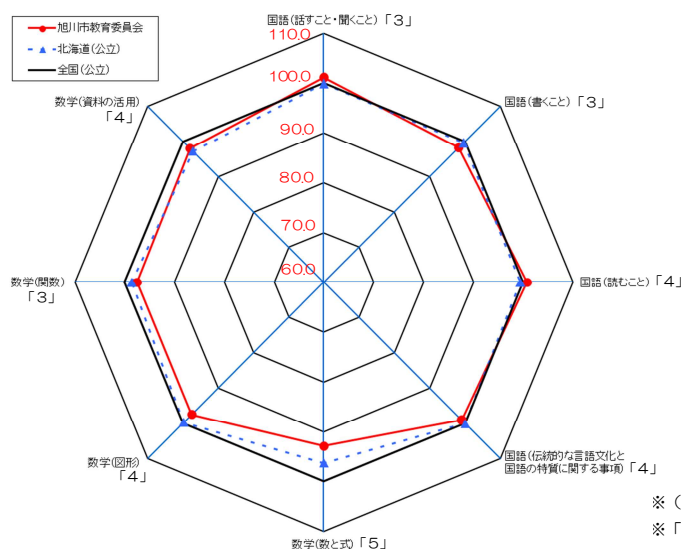
③ 無解答率の状況



- 国語については、無解答率が、全国より1.0%低く、北海道より0.8%低い。
- 算数については、無解答率が、全国より0.3%高く、北海道より0.4%低い。

(2) 中学校各教科

① 全教科領域別の状況



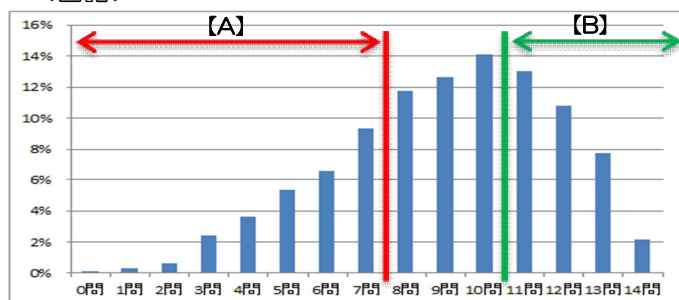
全8領域等のうち、国語の「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の2領域、数学の「資料の活用」の1領域において全道を上回っており、国語の「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の2領域において全国を上回っている。国語の「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の2領域、数学の「数と式」、「図形」、「関数」の3領域において全道を下回っており、国語の「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の2領域、数学の全ての領域において全国を下回っている。

※(本市の平均正答率)÷(全国平均正答率)×100で算出
※「」内の数は、対象問題数(領域等が重複する問題もあります)

② 各教科の正答数の状況

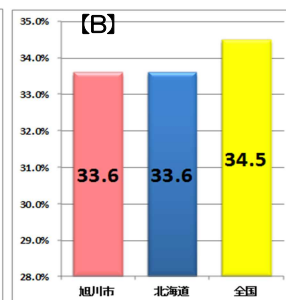
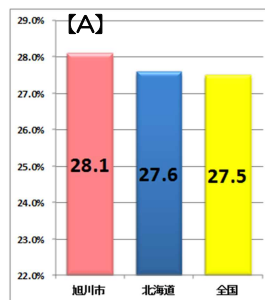
ア 正答数の分布

<国語>

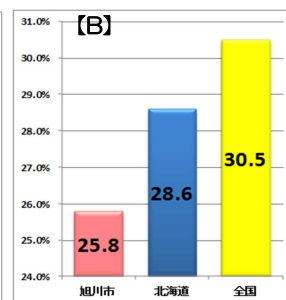
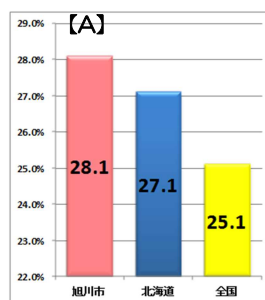
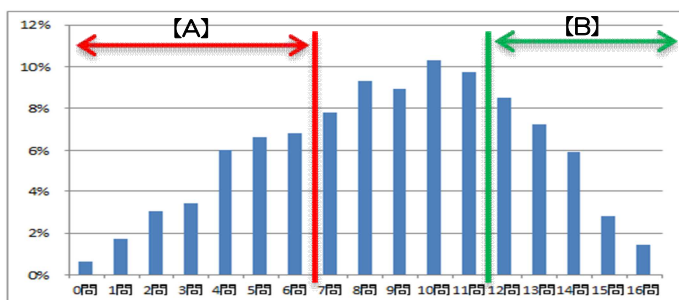


イ 正答数の少ない層の割合

ウ 正答数の多い層の割合



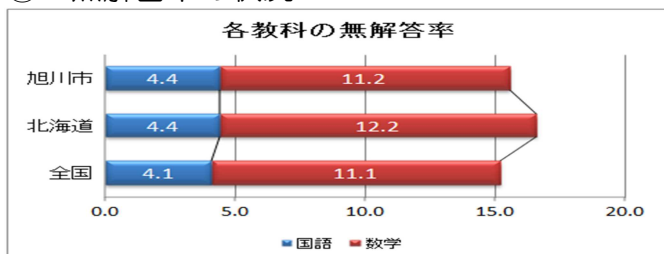
<数学>



- 国語の正答数の少ない層【A】に含まれる生徒の割合は、北海道より0.5%、全国より0.6%多い。正答数の多い層【B】に含まれる生徒の割合は、北海道と同じであり、全国より0.9%少ない。
- 数学の正答数の少ない層【A】に含まれる生徒の割合は、北海道より1.0%、全国より3.0%多い。正答数の多い層【B】に含まれる生徒の割合は、北海道より2.8%、全国より4.7%少ない。

※「正答数の少ない層」は、正答数を4つの階層に分けたうち、全国の「正答数の少ない層(下位25%)」と同じ範囲に含まれる児童の割合を表しています。
※「正答数の多い層」は、正答数を4つの階層に分けたうち、全国の「正答数の多い層(上位25%)」と同じ範囲に含まれる児童の割合を表しています。

③ 無解答率の状況



- 国語については、無解答率が、全国より0.3高く、北海道と同じである。
- 数学については、無解答率が、全国より0.1高く、北海道より1.0低い。

(4) 中学校国語 (全14問)

◇相当数の生徒ができている設問

※〔 〕は、本市の正答率

- 1一 話し合いの話題や方向を捉える【話すこと・聞くこと】
 1二 質問の意図を捉える【話すこと・聞くこと】〔92.0〕
 4一①② 文脈に即して、漢字を読む(俚ばして)(詳細)【漢字】〔98.3〕〔89.6〕

- 1一 話し合いの話題や方向を捉える 【話すこと・聞くこと】

正答率
90.8%

【話し合いの一部】における司会の本田さんの発言④は、話し合いの中でどのような役割を果たしていますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

【話し合いの一部】の1部

③ 第一中学校では、清掃場所を細かく分け、担当する場所を自分たちで決めることによって、一人一人が責任をもって活動するようになりました。また、本校は地域の方と合同で清掃活動を行っているのですが、そのための事前打ち合わせに、昨年度は担当場所の代表も参加しました。その結果、地域の方という協力して取り組むことができるようになりました。

④ 一人一人が責任をもって活動するようになったということですね。また、地域の方との打ち合わせに担当場所の代表が参加したことも、活性化につながったということでした。青空中学校の山下さん、よろしいですか。

第一中学校 石川さん

第一中学校 本田さん(司会)

- 1 話し合いの方向を転換する役割。
 2 参加者の発言の要点を確認する役割。
 3 参加者の発言の不足を指摘する役割。
 4 話し合いの進行の仕方を提案する役割。

＜正答の条件＞ ・2と解答している。

◆課題の見られた設問

※〔 〕は、本市の正答率、〔無解答率〕は無解答率が高いことが課題

- 2一 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く【書くこと】〔25.8〕
 2二 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える【書くこと】〔無解答率：8.9〕
 3一 文脈の中における語句の意味を理解する【読むこと】〔43.7〕
 3四 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ【読むこと】
 4三 相手や場に応じて敬語を適切に使う【言葉遣い】〔38.3〕

- 3四 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ【読むこと】

正答率
16.2%

【紹介】に、線部「様々に評価する」とありますが、【文章の一部】では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

＜条件1＞

【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしているのかを書くこと。

＜条件2＞

条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

紹介

中学教師の苦沙弥先生の家で暮らす猫「吾輩」から見れば、世の中は全くもって滑稽なもの。周囲の様子を観察し、様々に評価する。ユーモアあふれる長編小説である本作は、漱石が十八歳のときに発表して以来、多くの読者に愛されてきた。今なお、多くの人の共感を呼ぶ名作。

吾輩は猫である

吾輩は黒である

吾輩は黒である

9年間の視点

＜小学校からのつながり＞

- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること(小5、6)

＜中学校で身に付けさせたい力＞

- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする力(中1)

＜無解答率＞

・24.1%

＜正答の条件＞ ・次の条件を満たして解答している。

- ① 【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用して書いている。
 ② ①で引用した表現から、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしているのかを分かっているかを書いている。
 ③ ②のような「吾輩」の接し方について、自分の考えを具体的に書いている。

＜多く見られた誤答例＞

- 分かること(条件②)と自分の考え(条件③)を書いているが、その根拠となる表現の引用(条件①)ができていない。
- まったく記述できていない(無解答)。

＜正答例＞

「はなはだ御しやすい猫である」と評価しており、「吾輩」は「黒」の機嫌をとるような接し方をしていることが分かる。私は、このような「吾輩」の接し方はとても賢いと思う。

「腕力と勇氣とにいたってはとうてい黒の比較にはならない」と書かれていて、黒に敬意をもって接していることが分かります。相手の悪い面だけでなく、よい面にも目を向けることは大切なことだと思います。

本課題の改善策については
P8, 11へ

(5) 小学校算数 (全16問)

◇相当数の児童ができている設問

※ [] 内は、本市の平均正答率

- 1 (2) 500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く【変化と関係】〔85.3〕
 1 (4) 午後1時35分から50分後の時刻を書く【測定】〔88.9〕
 1 (5) 分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く【変化と関係】〔80.6〕
 3 (1) 6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ【データの活用】〔94.8〕
 3 (2) 学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ【データの活用】

3 (2) 学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ【データの活用】

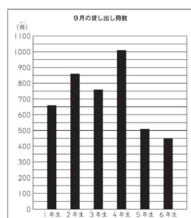
正答率
89.6%

3 ひよりさんたちは、10月の図書委員会で、図書室の本の貸し出しの様子について話し合っています。



最近、5年生と6年生は、ほかの学年より本を借りていない
ひより のではないのでしょうか。

そこで、9月の貸し出し冊数を調べ、下のグラフに表しました。



(2) 9月の貸し出し冊数について、左のグラフからどのようなことがわかりますか。

下のアからエまでの中から、最もふさわしいものを1つ選んで、その記号を書きましょう。

ア 貸し出し冊数がいちばん多い学年は、2年生である。

イ 2年生の貸し出し冊数は、3年生の貸し出し冊数の約2倍である。

ウ 5年生の貸し出し冊数は、4年生の貸し出し冊数の半分くらいである。

エ 1年生と3年生の貸し出し冊数の差は、約200冊である。

<正答の条件> ・ウと解答している。

◆課題の見られた設問

※ [] 内は、本市の平均正答率

- 1 (1) 二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く【数と計算、測定】〔58.3〕
 1 (3) ㊦と㊧の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ【変化と関係】〔52.8〕
 2 (1) 直角三角形の面積を求める式と答えを書く【図形】
 2 (3) 二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く【図形】〔45.9〕
 3 (4) 棒グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く【データの活用】〔51.1〕
 4 (2) 8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く【数と計算】〔50.4〕
 4 (3) 30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く【数と計算】〔48.7〕

2 (1) 直角三角形の面積を求める式と答えを書く【図形】

正答率
45.8%

2

図1のような直角三角形があります。

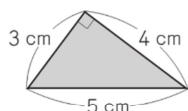


図1

- (1) 図1の直角三角形の面積は何cm²ですか。
求める式と答えを書きましょう。

<無解答率> 1.5%

<過去の類似した調査問題との比較>

平成19年度調査問題【小学校】A5(2)

次の図形の面積を求める式と答えを書きましょう。

(図) 三角形



正答率
(全国)
89.5%

平成21年度調査問題【小学校】A6

下の図のような直角三角形の面積が何cm²になるかを求めます。この直角三角形の面積を求める式を書きましょう。
ただし、図の1目盛りは1cmとします。また、計算の答えを書く必要はありません。



正答率
(全国)
67.1%

9年間の視点

<小学校で身に付けさせたい力>

- 図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力(小5)

<中学校へのつながり>

- 図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察すること(中1)

<正答の条件>

- 式を $3 \times 4 \div 2$ と解答し、答えを 6cm^2 と解答している。

<多く見られた誤答例>

- $3 \times 4 \times 5 \div 2$ 又は $3 \times 4 \times 5$ と回答している。

<正答例>

式 $3 \times 4 \div 2$ 答え 6cm^2

式 $4 \times 3 \div 2$ 答え 6cm^2

本課題の改善策については、P14へ

(6) 中学校数学 (全16問)

◇相当数の生徒ができている設問

※ [] 内は、本市の平均正答率

5 反復横跳びの記録の中央値を求める【資料の活用】〔88.1〕

6(1) 四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く【数と式】

7(1) 与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める【関数】〔92.5〕

6(1) 四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く【数と式】

正答率
81.6%

6 自然数を5つずつに区切った表があります。この表で、縦に2つ、横に2つの数が入る四角で4つの数を囲みます。例えば、右の図1のように四角で4つの数を囲むとき、左上の数は3、右上の数は4、左下の数は8、右下の数は9になります。

図1

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15

1, 2, 6, 7のとき $1 + 2 + 6 + 7 = 16 = 4 \times 4$
 9, 10, 14, 15のとき $9 + 10 + 14 + 15 = 48 = 4 \times 12$
 22, 23, 27, 28のとき $22 + 23 + 27 + 28 = 100 = 4 \times 25$

優太さんは、これらの結果から、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になると予想しました。

優太さんと真菜さんは、右の図2のように、4つの数を囲んで、それら4つの数の和がどんな数になるかを調べています。

図2

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31	32	33	34	35

次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(1) 四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、4つの数の和は4の倍数になることが成り立つかどうかを下のようになにに確かめます。下の [] に当てはまる式を書きなさい。

12, 13, 17, 18のとき $12 + 13 + 17 + 18 = 60 = []$

<正答の条件>

- ・「 4×15 」又は「 15×4 」と解答している。
- ・「 $15 + 15 + 15 + 15$ 」と解答している。

◆課題の見られた設問

※ [] 内は、本市の平均正答率

4 経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する【関数】〔45.5〕

6(2) 四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する【数と式】〔54.1〕

6(3) 四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であることを説明する【数と式】

7(2) 与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する【関数】〔26.9〕

8(2) 2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ【資料の活用】〔33.5〕

8(3) 「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する【資料の活用】〔9.5〕

9(1) 四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する【図形】〔38.5〕

9(3) $\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く【図形】〔27.6〕

6(3) 四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であることを説明する【数と式】

正答率
28.3%

(3) 二人は、自然数を6つずつに区切った表でも、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和が4の倍数になるかを考えることにしました。そこで、次の図3のような表をつくり、四角で囲んだ4つの数の和について調べました。

図3

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30

1, 2, 7, 8のとき $1 + 2 + 7 + 8 = 18 = 2 \times 9$
 17, 18, 23, 24のとき $17 + 18 + 23 + 24 = 82 = 2 \times 41$

これらの結果から、図3のときは四角で囲んだ4つの数の和が、4の倍数にならないことがわかります。そこで、真菜さんは、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和がどんな数になるかを調べるために、左上の数を n として、右上の数を $n+1$ 、左下の数を $n+6$ 、右下の数を $n+7$ と表し、次のように計算しました。

真菜さんの計算

$$\begin{aligned} & n + (n+1) + (n+6) + (n+7) \\ &= n + n + 1 + n + 6 + n + 7 \\ &= 4n + 14 \\ &= 2(2n + 7) \end{aligned}$$

n	$n+1$
$n+6$	$n+7$

前ページの真菜さんの計算から、四角で囲んだ4つの数の和は、 $2(2n+7)$ になるので2の倍数になることがわかります。このことについて、二人は話し合っています。

真菜さん「自然数を6つずつに区切って表をつくったときは、4つの数の和が $2n+7$ の2倍になることがわかるね。」
 優太さん「 $2n+7$ はどんな数かな。」

$2(2n+7)$ の $2n+7$ は、 $n+(n+7)$ と変形することができます。このことから、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和は、左上、右上、左下、右下の数のうち、ある2つの数の和の2倍であることがわかります。

四角で囲んだ4つの数の和は、どの位置にある2つの数の和の2倍ですか。「は、である」という形で書きなさい。

9年間の視点

<小学校からのつながり>

- ・数とその表現や数量の関係に着目し、必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察すること(小6)

<中学校で身に付けさせたい力>

- ・数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力(中1, 2)

<無解答率> 28.2%

<正答の条件>

「〇〇は、◇◇である。」という形で、次の(a), (b)を記述しているもの。

- (a) 〇〇が、「四角で囲んだ4つの数の和」である。
- (b) ◇◇が、「左上の数と右下の数の和の2倍」である。

<多く見られた誤答例>

- ・四角で囲んだ4つの数の和は、2つの数の和の2倍である。
- ・全く記述できていない(無回答)。

<正答例>

四角で囲んだ4つの数の和は、左上の数と右下の数の和の2倍である。

左上の数と右下の数の和の2倍である。

本課題の改善策については、P 13へ

3 教科に関する調査結果の課題の改善策

課題の改善策 1

国語

課題の見られた問題の出題の趣旨	
小2三	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。
小2四	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる。
中3四	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容	
〔小・第5学年及び第6学年〕	読む
〔小・第3学年及び第4学年〕	読む
〔中・第1学年〕	読む

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 目的に応じた情報を見付けて、文章を書くこと
- ② 必要な情報と不必要な情報を適切に判断し、取捨選択すること

<身に付けさせたい資質・能力>

- ・条件を満たし、情報を選択して文章を記述する力

【国語の改善策①】

条件を明確にした課題の設定と、条件を満たして解答することができたかを確認する活動の設定

<授業例>

小・第5学年「想像力のスイッチを入れよう」 教科書 P187～

本授業例は、「旭川市立小・中学校教育課程編成の指針国語編」の資料3－小5－43に記載の学習内容5に当たります。

授業改善のPOINT

終末場面において、条件を一つずつ確認し、自分のノートにも線を引かせるなどして、条件を満たして解答できていることを全ての児童に実感させましょう。

全ての児童が課題解決を果たせるよう、それぞれの条件を満たすために手掛かりとなる情報や考えを交流し、視覚化します。

授業改善のPOINT

課題解決のゴールを明確化するため、条件を明らかにしましょう。字数制限を設定することにより、情報の取捨選択や言葉の精査を行う力が高まります。

本時の課題設定につながる既習事項を確認し、本時の課題意識を高めます。

ふり振り返り

・どのようなときに気を付けて、自分の考えをまとめることができましたか。
・今日の学習は、メディアとの関わり方を考える学習にどのように生かせそうですか。

「想像力のスイッチを入れる」とは、自分の想像力を働かせ、思いこみを減らすことです。筆者は、自分の意志で想像力を働かせてほしいという気持ちを持てるために「スイッチ」という言葉を使ったと思います。(九十五字)

「想像力のスイッチ」↑比喩表現
・短い言葉にして分かりやすくする
・「入っている」「入っていない」の状態が分かりやすい
・自分の意志で「入れる」ことを強調する

「想像力のスイッチを入れる」とは何か
・P189 思いこみを減らす
・P189 頭の中に入れる
・P193 自分の想像力でかべを破り
・P193 大きな窓をながめ判断できる

<条件>

- 一 「想像力のスイッチを入れる」とはどのようなことか、本文の言葉を使って説明すること
- 二 筆者が、「想像力のスイッチ」と表現した意図について、自分の考えを書くこと
- 三 七十字以上、百字以内で書くこと

めあて

「想像力のスイッチ」について、自分の考えをまとめよう。

想像力のスイッチを入れよう

- 筆者があげている事例
- ・学校のマラソン大会の例
 - ・半分だけ見える図形の例
 - ・サッカーの監督に関する報道の例

課題の改善策2

国語

課題の見られた問題の出題の趣旨

- 小③三(2)イ 文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる。
- 小③三(2)オ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることができるかどうかをみる。
- 中④三 相手や場に応じて敬語を適切に使うことができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

- 〔小・第3学年及び第4学年〕(1)力
- 〔小・第3学年及び第4学年〕(1)力
- 〔中・第2学年〕(1)力

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 言葉の使い方について、理解すること
- ② 場面や目的に応じて、言葉を適切に使うこと

＜身に付けさせたい資質・能力＞

- ・言葉の使い方について理解し、生活の中で適切に使う力

【国語の改善策②】

「文や文章」、「言葉遣い」、「表現の技法」の内容について、各学年における確実な習得と確認

＜授業例＞

小・第5学年「敬語」 教科書P103～

本授業例は、「旭川市立小・中学校教育課程編成の指針国語編」の資料3－小5－22に記載の学習内容1, 2, 3, 4, 5に当たります。

改善のPOINT

当該の内容が確実に定着しているか、学期末や年度末などに改めて確認し、必要に応じて、学び直しをしましょう。

旭川市学習プリントの活用

文の主語が、相手方であるか、自分（身内）であるかを考えることで、尊敬語か謙譲語かを判断できることに気付かせます。

授業改善のPOINT

指導すべき内容は、教師がしっかりと「教える」ことが重要です。本時のゴールの姿をイメージして、教えるべきことと考えさせるべきことを整理しましょう。

身近な場面を想起させ、敬語を学ぶ必要感をもたせることにより、課題意識を高めます。

ふり振り返り

敬語を使うことで、どのようなよさがあると思いますか。
これからどのように敬語を使っていきたいですか。

＜挑戦しよう＞

司会者 みなさん、池田さんが来ました。
今日は、おとうふ屋の仕事について、たくさん教えてもらいました。
それでは、池田さん、お願いする。

・学校に、料理研究家の関さんを招く。けんじよう語
・学校の歴史について、校長先生が書く。尊敬語
・となりの山田さんにおかしをもらった。けんじよう語
・私が

先生は、今、職員室にいる。尊敬語

＜敬語の種類＞

けんじよう語 「うかがう」「お見送りする」など
自分や身内の者の動作をけんそんして言うことで、その動作を受ける人への敬意を表すときに使う。

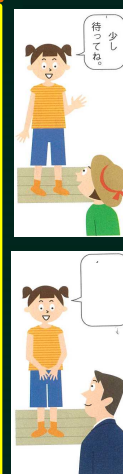
尊敬語 「いらっしゃる」「お話しになる」など
相手や話題になっている人をうやまう気持ちを表すときに使う。

ていねい語 「です」「ます」など
あまり親しくない人や大勢の人に対して話したり書いたりするときに使う。

めあて

敬語を理解して、
使い方を考えよう。

敬語



課題の改善策3

国語

課題の見られた問題の出題の趣旨

小③二 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

中②一 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

〔小・第5学年及び第6学年〕書ウ

〔中・第2学年〕書力

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 情報の伝わり方を意識して、文章を書くこと
- ② 目的や意図に応じて適切に表現できているかを見直して、改善すること

<身に付けさせたい資質・能力>

- ・情報の受け手の立場に立って、伝え方を工夫・改善する力

【国語の改善策③】

「話すこと」、「書くこと」によって情報を発信する場面において、受け手の立場に立って、伝え方を見直し、改善する活動の設定

<授業例>

中・第2学年「構成や展開を工夫して書こう」 教科書 P216～

本授業例は、「旭川市立小・中学校教育課程編成の指針国語編」の資料3－中2－59に記載の学習内容5，6に当たります。

授業改善のPOINT

修正前・後の作品を並べて読むことにより、手直しすることの価値を実感させます。

本時の中心となる活動に必要な時間を十分に確保することが必要です。終末でのまとめや振り返りの時間を含め、時間配分に留意して、計画的に授業を展開しましょう。

授業改善のPOINT

本時の課題解決に必要な観点を確認したり、交流したりするなどして、全ての児童生徒が課題解決への見通しをもった上で活動できるようにしましょう。

「ドキュメント」などを活用し、タブレットで文章を作成・修正させることにより、長文を書くことや手直しすることへの抵抗感を軽減させます。

ふり返し

・手直したことによって、読み手に対してどのような効果がありましたか。
これから、文章を書くときのようなことに気を付けたいですか。

- ・自分の作品を読み直し、手直しの観点を考える(5分)
- ・友だちと考えを交流し、手直しの観点を助言し合う(10分)
- ・観点に沿って、手直しをする(15分)
- ・手直し前、手直し後の作品を読み比べ、手直したよさについて評価し合う(10分)

<手直しの観点>

表現

- 登場人物の呼称
- 心情を表す表現
- ・風景の描写
- ・気持ちそのものを書く
- ・比喩表現
- ・行動から気持ちを表現
- 場面の移り変わり

構成や展開(起承転結)

- ・心情の変化
- ・伏線
- ・時系列の変化
- ・結末の工夫

めあて

読みの立場に立って、書いた作品を手直ししよう。

構成や展開を工夫して書こう
「ある日の自分」の物語を書く

- 構成→起承転結(状況設定・出来事の発端・展開・山場・結末)
- 展開→場面展開を明確に

課題の改善策4

国語

課題の見られた問題の出題の趣旨

中②二 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考
 えることができるかどうかをみる。

中③四 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考
 えをもつことができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

〔中・第2学年〕書才

〔中・第1学年〕読才

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 正解が一つではない課題に対して、自信をもって自分の考えを表現すること
- ② 自分の考えを根拠に基づいて文章で記述すること

＜身に付けさせたい資質・能力＞

- ・自分の考えをもち、自信をもって文章で表現する力

【国語の改善策④】

正解が一つではない課題の設定と、終末に自分の考えを書く活動の設定

＜授業例＞

中・第2学年「走れメロス」 教科書P196～

本授業例は、「旭川市立小・中学校教育課程編成の指針国語編」の資料3－中2－55に記載の学習内容4に当たります。

授業改善のPOINT

一時間の学びを生かし、改めて自分の考えを書く活動を終末に設定しましょう。この場面で、全ての児童生徒が条件を満たして考えを書くことができることを目指して、授業を展開することが大切です。

終末場面で全ての生徒が目指すゴールに達することができるよう、交流の在り方や時間配分を工夫します。
 （交流はあくまでも手段です。）

授業改善のPOINT

「考えの形成」を目標とする時間においては、どの児童生徒も自信をもって考えを表現できるよう、多様な考えが保障される課題を設定しましょう。

「メロス」「王」の人物像など、既習事項を確認しながら、本時の課題意識を醸成します。

ふり返り

「走れメロス」の魅力をもとめるために、どのようなことに留意しましたか。
 これから、どのような観点で文学作品に親しみたいですか。

「走れメロス」の魅力は、主人公であるメロスの人物像である。困難に負けずに、最後まで走り続ける強さとともに、後先考えずに王に苦言を呈したり、寝過ごしたりする人間らしさも描写されていることにより、共感しながら読むことができる。

- メロスの強さと弱さ
- ディオニスの暴君的要素とその変容
- 友情と信頼の美しさ
- 場面転換を印象付ける情景描写
- 雰囲気や味わいを醸し出す比喩表現

＜条件＞

- ※ 観点はどれでもよい
- ※ 自分の感じ方なので特定の正解はない
- 一文目で、魅力をズバリと述べる
- 二文目以降に、自分の考えとその根拠となる内容を述べる

＜魅力の観点＞

- ・登場人物の設定・人物像
- ・場面の展開・表現のしかた
- ・描写・文体・テーマなど

めあて

自分が感じる
 「走れメロス」の魅力をもとめよう。



走れメロス

課題の改善策 1

算数・数学

課題の見られた問題の出題の趣旨

- 小①(1) 二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。
- 中⑦(2) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

- 〔小・第3学年〕A 数と計算(2)ア(イ)
- 〔中・第1学年〕C 関数(1)エ・オ

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- 問題場面から、事柄や関係を数学的に捉えること

＜身に付けさせたい資質・能力＞

- 問題場面から事柄や数量の関係を数学的に捉える力

【算数・数学の改善策①】

授業の導入場面において、児童生徒の問題意識を引き出し、算数・数学の問題を見いだす活動の設定

＜指導の工夫例＞

【授業で心掛けてほしいこと】

- 児童生徒が算数・数学の問題を発見するよう働きかけること

授業改善のPOINT

日常生活や社会における具体的な場面から、児童生徒が算数・数学の問題を見だし、解決に取り組むことができるように働きかけを工夫しましょう。

日常生活や社会における具体的な場面を取り上げ、算数・数学の問題を見いだすことができるよう工夫する。(以下、T：教師、C：児童)

T：(東京オリンピックの棒高跳び競技の画像や動画を見せてから)

棒高跳びは、棒の長さや重さ、太さなどを選手が自由に決められます。例えば、Aの棒は、重さ3kgで、長さは6mです。もう一つのBの棒は、重さ2.4kgで、長さは5mです。

C：決まりがないなんておもしろい。C：長いほうが高く跳べるのかな？

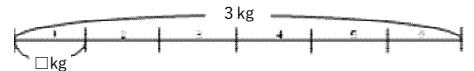
T：ある選手が、Aの棒の材質で、長さ5mの棒を作り、Bの棒と比べて軽い方を使いたいそうです。実際に作る前に調べられないかな？

C：Aで作る方が軽そうかな？ C：同じ長さ分の重さで比べたら？

T：では、1m分の重さで比べてみましょう。

問題 AとBの棒1m分の重さを求めて比べましょう。

⇒ まず、Aに取り組ませ、「6mを1mに分ける」＝「6で割る」ことに気付かせるとともに、具体物や線分図などを示すことで、「答えが1kgよりも小さくなりそうだ。」という量感や答えの見通しをもたせられるようにする。Aの集団解決後、Bにも取り組ませ、理解を深める。



算数・数学の問題をはじめから提示するのではなく、数学の事象を提示し、児童生徒の問題意識を高めてから、数学的に表現した問題を設定する工夫をする。(以下、T：教師、S：生徒)

T：碁石を右のように正方形の形に並べます。⋮ (数学の事象の提示)

1辺の碁石の数を3個にすると、碁石は合計で何個必要かな。

S：合計で8個必要です。⋮

T：1辺の碁石の数を4個、5個と増やしていくと、碁石の合計の個数はどのように変わっていくかな。

S：どんどん増えていきます。S：4個だと12個です。

T：1辺の碁石の数が100個になったら、合計の個数は？

S：400個くらいかな。S：どうやって求めたらいいかな。

T：考えてみましょう。(数学的に表現した問題の設定)

問題 右のように碁石を正方形の形に並べるとき、1辺の碁石の数が100個なら、碁石は合計で何個必要か求めましょう。



授業改善のPOINT

数学の事象を提示し、児童生徒とのやりとりを通して、児童生徒の問題意識を高めてから問題を設定したり提示したりしましょう。

課題の改善策2

算数・数学

課題の見られた問題の出題の趣旨

小④(2) 商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができるかどうかをみる。

中⑥(3) 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

〔小・第4学年〕A 数と計算(4)ア(工)

〔中・第2学年〕A 数と式(1)イ・ウ

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 計算した結果を振り返り、問題場面に適しているか判断すること
- ② 問題を解決した結果から、さらに分かることについて考えること

＜身に付けさせたい資質・能力＞

・計算などの結果について、日常生活の場面に即して判断したり、発展的に考察したりする力

【算数・数学の改善策②】

問題を解決して得られた結果について考察する活動の設定

＜指導の工夫例＞

【授業で心掛けてほしいこと】

・問題を解決した結果から分かることについて考える機会を設けること

授業改善のPOINT

問題を解決して得られた結果を、日常生活や社会の場面に照らして考えたり、学んだことを日常生活で活用したりしましょう。

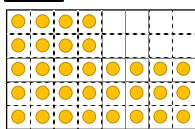
- ① 計算した結果の意味を問題場面に当てはめ、答えとして適切であるかどうか判断する機会を設定する。

問題 8人に、4Lのジュースを等しく分けます。1人分は何Lですか。求める式と答えを書きましょう。

⇒ 「 $8 \div 4 = 2$ で、1人分は2Lです。」と考えた児童に、「問題に合っているかな。」と問い返し、考えを振り返らせる。困っている場合は、ペアで話し合わせたり、「1人分2Lだと、8人分で何Lあるのかな。」と発問したりして、問題場面に合わないことに気付かせる。

- ② 授業で働かせた数学的な見方・考え方を日常生活の場面などで活用することを考えさせる機会を設定する。

問題 牛乳は何本あるでしょうか。



⇒ 数のまとまりに着目し、分割したり、移動したりして考え、問題を解決した後で、本時の終末の段階に、「考え方を身の回りで使える場面はあるかな。」と問いかけ、日常生活で活用できる場面を想起させる。

- ① 問題を解決した結果から、さらに分かることについて、考察を深める場面を設定する。

問題 連続する3つの整数の和は、3の倍数になることを説明しよう。

⇒ いくつかの数を取り上げ、和が3の倍数になりそうなことや、説明には文字が必要であることに気付かせてから、必ず3の倍数になることを文字を用いて説明することを課題として、個人思考の時間をとる。集団解決において、 n を最も小さい整数とすると、連続する3つの整数の和は、 $3(n+1)$ と表せることから、3の倍数になることを確かめた後で、「 $3(n+1)$ の式から、ほかに分かることはないかな？」と問いかけ、中央の整数の3倍であることについて考察する場面を設定する。さらに、条件を変更して、連続する5つの整数の和の性質を予想し、説明する練習問題に取り組みさせる。

- ② 問題の解決後、新たな条件を提示し、発展的に考察する場面を設定する。

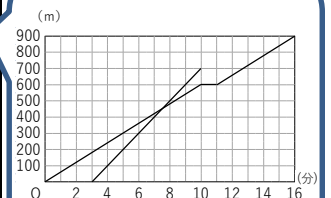
右のグラフが、家から900m離れた駅へ向かって、弟が8時に出発し、兄が後から同じ道を通った様子を表していることを伝えて、グラフから読み取れることについて生徒と話し合ってから、本時の問題を提示する。

問題 兄が弟を追いついたのは何時何分だろうか。

⇒ 個人思考後、集団解決において、グラフから式を求め、連立方程式を解く考え方などを取り上げ、問題を解決する。その後、問題場面を生かして、兄が忘れ物に気付いて同じ道を走って家に引き返したことや、8時12分に家に着いたことなど新たな条件を提示し、「兄がもう一度弟と出会ったのは何時何分だろうか。」と発問して、発展的に考察する場面を設定する。

授業改善のPOINT

問題を解決して得られた結果から、新たな問いを見だし、考察する活動を位置付けましょう。



課題の改善策3

算数・数学

課題の見られた問題の出題の趣旨	学習指導要領における領域・内容
小②(1) 三角形の面積の求め方について理解しているかどうかをみる。	〔小・第5学年〕B 図形(3) ア (ア)
中⑨(1) 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができるかどうかをみる。	〔中・第2学年〕B 図形(2) イ・ウ

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 図に示された直角三角形の全ての辺の長さから、必要な情報を選び出して立式すること
- ② 2通りの証明の方針から、より簡易に証明できるものを選択すること

＜身に付けさせたい資質・能力＞

- ・問題解決に必要な数値や関係を捉え、数学的に表現・処理する力
- ・与えられた条件を踏まえて、解決の方針を立てる力

【算数・数学の改善策③】

問題を解決するために必要な情報やよりよい方法を判断する活動の設定

＜指導の工夫例＞

【授業で心掛けてほしいこと】

- ・児童生徒が判断する機会を増やすこと

授業改善のPOINT

問題文や図から問題を解決するために必要な情報を選び出したり、正しい求め方を選択したりするなど、児童生徒が判断する活動を位置付けましょう。

① 問題の一部をマスキングする。

問題 まつぼっくりを□に見つけました。□に□しました。□でなんこになりましたか。

⇒ マスキング部分にどんな数値や言葉を入れるか考えさせることにより、問題を見通したり、判断したりする力を育てる。

② 情報に過不足のある問題を提示する。

問題 (長方形の図形だけを提示して) 面積は何cm²?

⇒ 「縦の長さや横の長さを知りたい。」と気付かせるなど、数値を抜いたり、不要な情報をあえて加えたりして問題を提示することにより、解決するために必要な情報を判断する力を育てる。

③ 正しい求め方を選ぶ形式の問題を提示し、選択の理由を問う。

発問 「どうして(アの式が正しくて)、イの式は間違いなの？」

⇒ なぜそれではいけないのかという理由を説明する活動を位置付けることにより、適切な求め方を判断する力を育てる。

① 問題を提示する際、複数の方法を示し、解決方法を児童生徒に選択させる機会を設定する。

A=B=C の形の方程式を示し、生徒とのやりとりを通して、右下の3通りの連立方程式で表せることを確認してから、問題を提示する。

問題 $-8x+5y=4x+2y=12$ は3通りの式で解くことができる。

3通りの式のうち、好きな解き方で解きましょう。

⇒ 3通りの式を確認して、個人思考に取り組みさせる。集団解決の場面で、それぞれの解き方を選択した理由と計算の仕方を交流し、よりよい解き方について話し合う活動を設定する。練習問題においても、解き方を選択させ、その理由を振り返る機会を設定する。

② 複数の考え方で解決できる問題を提示し、解決方法を児童生徒に選択させる機会を設定する。

問題 2点(-1,1), (1,5)を通る直線の式を求めましょう。

⇒ 個人思考に1, 2分間取り組ませてから、解決の方針のみを取り上げ、グラフの傾き、連立方程式等の複数の考え方があることを交流して、解決方法を選択させてから、再び個人思考に取り組ませる。集団解決の場面で、それぞれの考え方で問題を解決できることを確認した後、よりよい方法について考え合う機会を設定する。

授業改善のPOINT

複数の方法から選択して問題の解決に取り組み、解決後に、その選択について振り返って考える活動を位置付けましょう。

$$\begin{cases} A=B \\ B=C \end{cases} \quad \begin{cases} A=B \\ A=C \end{cases} \quad \begin{cases} A=C \\ B=C \end{cases}$$

課題の改善策4

算数・数学

課題の見られた問題の出題の趣旨

- 小②(3) 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。
- 中⑥(2) 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

〔小・第5学年〕B 図形(3) ア (ア)

〔中・第2学年〕A 数と式(1) イ・ウ

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 求め方や答えを式や言葉を用いて説明すること
- ② 事柄が成り立つ理由を筋道立てて考え説明すること

＜身に付けさせたい資質・能力＞

- ・求め方や答えを数学的な表現を用いて説明する力
- ・根拠を明確にして説明する力

【算数・数学の改善策④】

図や式など、数学的な表現を用いて説明したり、説明を正確・簡潔・明瞭にしたりする活動の設定

＜指導の工夫例＞

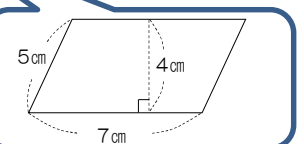
【授業で心掛けてほしいこと】

- ・児童生徒が理由や根拠を含めて説明する機会を増やすこと

- ① 本時の問題を解決した後に、確認問題を提示し、ペアで説明し合う。
本時の問題と数値などが異なる確認問題を提示し、「右の平行四辺形の面積の求め方を隣の人同士で説明してみましょう。」と働きかけ、児童がペアで伝え合う活動を行ってから、児童を指名し、「平行四辺形の面積は、底辺×高さで求められます。底辺が7cmで高さが4cmだから、面積は、 $7 \times 4 = 28$ で、 28cm^2 です。」と説明できることや、5cmが不要であることを全体で確認した後に、練習問題に各自で取り組ませる。練習問題の解答の際も、答えだけでなく求め方を説明するよう働きかける。
- ② 次時の授業のはじめに、ペアで説明し合う。
前時の学習内容を振り返り、「昨日は〇〇の求め方を学習しましたね。求め方を隣の人同士で説明してみましょう。」などと働きかける。
- ③ 本時の問題を解決する過程において、自分の考えをペアで伝え合う。
考えを深めさせたい場面で、「考えを隣の人に話してみましょう。途中でいいですよ。」などと働きかける。

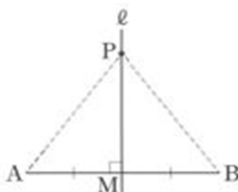
授業改善のPOINT

一人一人の児童生徒が考えを図や式で表現する機会を意図的に設定しましょう。



授業改善のPOINT

誤りのある証明や説明を読み、解決の過程を振り返って改善する活動を取り入れましょう。



① 過程に誤りのある証明を読み、適切な証明を考える。

問題 垂直二等分線上の点は、線分の両端からの距離が等しいことの証明を次のように考えたが、間違いと言われた。どこが間違いか？
 $\triangle PAM$ と $\triangle PBM$ において、仮定より、 $AM=BM$ 、 $PA=PB$
 共通な辺なので、 $PM=PM$
 3組の辺がそれぞれ等しいので、 $\triangle PAM \equiv \triangle PBM$
 合同な三角形の対応する辺は等しいので、 $PA=PB$
 $\Rightarrow$ 個人思考の時間を少しとってから、誤りと考えた部分を共有し、学級全体での話し合いを通して、仮定と結論の意味や、証明の手順について確認する。続いて、適切な証明に直すよう発問し、個人思考により修正に取り組みさせてから、ペアなどで説明し合う活動を設定する。その後、学級全体で適切な証明を確認してから、本時の学習内容を振り返る活動を行う。

② 考え方に誤りのある説明を読み、適切な説明を考える。

問題 2枚のコインを投げたとき、2枚とも表になる確率について、「2枚のコインの出方が表2枚、表と裏1枚ずつ、裏2枚の3通りだから、 $1/3$ である。」と考えたが、間違いと言われた。どこが間違いか？
 $\Rightarrow$ ペアで実験を行い、 $1/3$ が正しくなさそうと実感させてから、正しい確率の求め方を考えさせる。集団解決において、表や樹形図を用いた考えを取り上げ、確率が $1/4$ となる理由を説明する活動を設定する。

4 児童生徒質問紙調査結果の概要

(1) 質問項目の分類の考え方

児童生徒に対する質問紙調査の全質問項目（小学校69・中学校69）について、国立教育政策研究所の報告書では、質問項目を12個に分類していますが、この国立教育政策研究所の分類と本市の確かな学力育成プランの3つのカテゴリー（「学びを深める授業づくり」「落ち着いた学級づくり」「望ましい学習習慣づくり」）との関連付けを図り、下の表のとおり整理しました。

カテゴリー	国立教育政策研究所の分類	質問番号	
1 学びを深める授業づくり	地域や社会に関わる活動の状況等	小	24, 25 (2問)
		中	24, 25 (2問)
	ICTを活用した学習状況	小	26～29 (4問)
		中	26～29 (4問)
	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	小	31～38 (8問)
		中	31～38 (8問)
	総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳	小	39～42 (4問)
		中	39～42 (4問)
	学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）	小	43～51 (9問)
		中	43～51 (9問)
	学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）	小	52～60 (9問)
		中	52～60 (9問)
	学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）	小	61～63 (3問)
		中	61～63 (3問)
2 落ち着いた学級づくり	各教科の調査時間の適切性	小	68, 69 (2問)
		中	68, 69 (2問)
3 望ましい学習習慣づくり	挑戦心, 達成感, 規範意識, 自己有用感等	小	6～16 (11問)
		中	6～16 (11問)
	基本的生活習慣等	小	1～5 (5問)
		中	1～5 (5問)
	学習習慣, 学習環境等	小	17～23, 30 (8問)
		中	17～23, 30 (8問)
※ コロナ禍における学びを止めない対応	新型コロナウイルス感染症の影響	小	64～67 (4問)
		中	64～67 (4問)

(2) 分析結果の整理

質問項目に「している」「どちらかといえばしている」など、肯定的な回答をした児童生徒の割合が80%以上のものを「肯定的な回答が高い割合を示した質問事項」とし、肯定的な回答が60%未満のものを「肯定的な回答が低い割合を示した質問事項」として整理しました。

(3) クロス集計

教科に関する調査結果における正答率の高い児童生徒（U層）とそれ以外の児童生徒（E層）の質問紙調査の回答状況を比較し、各教科の正答率と学習状況・生活習慣との相関関係を分析しました。

(4) 旭川の子どもたちの概況

- 学びを深める授業づくり → ◆
- 落ち着いた学級づくり → ■
- 望ましい学習習慣づくり → ●

小学生

- ◆コンピュータなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思うよ！
- ◆国語や算数の勉強は大切だと思うよ！
- ◆国語や算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うよ！

- ◆友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができるよ！
- ◆学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていたと思うよ！



- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うよ！
- 人の役に立ちたいと思っているよ！
- 友達と協力するのは楽しいと思っているよ！
- 人が困っているときは進んで助けているよ！



- 朝食を毎日食べているよ！
- 毎日、同じくらいの時刻に起きているよ！
- 家で自分で計画を立てて勉強をしているよ！

- ◆5年生に受けた授業で、コンピュータなどのICT機器を週1回以上使用していると回答している児童の割合は低い。
- 自分の思っていることや感じていることを言葉で表すことができる児童の割合は低い。
- 普段、1日当たり1時間以上テレビゲームをする児童の割合が高い。

中学生

- ◆コンピュータなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思うよ！
- ◆国語の勉強は大切だと思うよ！
- ◆数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているよ！

- ◆友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができるよ！
- ◆道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいるよ！



- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うよ！
- 人の役に立ちたいと思っているよ！
- 友達と協力するのは楽しいと思っているよ！
- 人が困っているときは、進んで助けているよ！



- 朝食を毎日食べているよ！
- 毎日、同じくらいの時刻に起きているよ！
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ているよ！

- ◆1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器を週1回以上使用していると回答している生徒の割合は低い。
- 自分にはよいところがあると感じている生徒の割合は低い。
- 普段、1日当たり1時間以上テレビゲームをする生徒の割合が高い。

(5) 小学校

①「学びを深める授業づくり」について

分析結果

- 各教科の調査時間の適切性に関わる質問項目を除き、39質問項目中、20項目において肯定的な回答が高い割合を示しました。一方、「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」などの7項目において、肯定的な回答が低い割合を示しました。
- 3年間の経年比較では、7項目において肯定的な回答が増加傾向にありました。
- 正答数の多い児童は、質問の「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う」「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」の割合が高い傾向にあります。

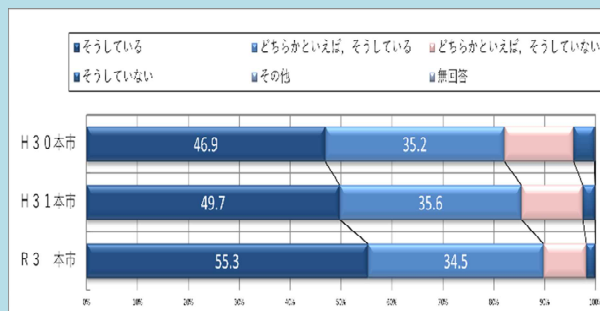
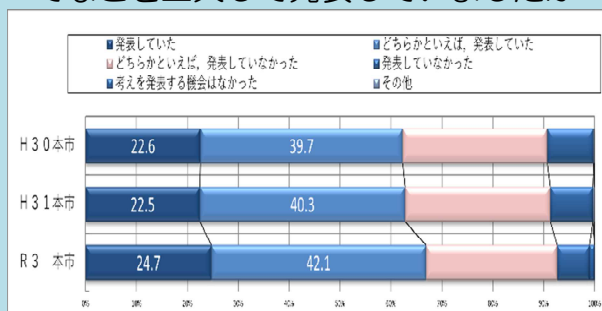
肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

※（ ）内は、肯定的な回答をした児童の割合

- 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか（96.2%）
- 国語や算数の勉強は、大切だと思いますか（国語：95.4%，算数：94.5%）

肯定的な回答が特に増加傾向にある質問項目

- 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
- 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか

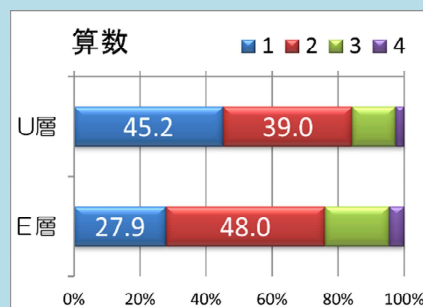
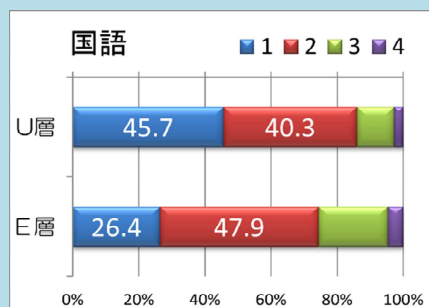


正答数の多い児童（U層）とそれ以外の児童（E層）とのクロス集計

- 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

- 1 当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない

- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 4 当てはまらない



詳細は、「報告書」の5 児童生徒質問紙調査結果の課題の改善策1 P22へ

②「落ち着いた学級づくり」について

分析結果

- 11 質問項目中、6 項目において肯定的な回答が高い割合を示し、肯定的な回答が低い割合を示す項目はありませんでした。
- 3 年間の経年比較では、肯定的な回答が増加傾向や減少傾向にある項目はありませんでした。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

※（ ）内は、肯定的な回答をした児童の割合

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか（98.5%）
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか（95.4%）

詳細は、「報告書」の5 児童生徒質問紙調査結果の課題の改善策2 P26へ

③「望ましい学習習慣づくり」について

分析結果

- 13 質問項目中、6 項目において肯定的な回答が高い割合を示しました。一方、「新聞を読んでいますか」など、2 項目において、肯定的な回答が低い割合を示しました。
- 3 年間の経年比較では、1 項目「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」において肯定的な回答が増加傾向にありましたが、1 項目「新聞を読んでいますか」において、肯定的な回答が減少傾向にありました。

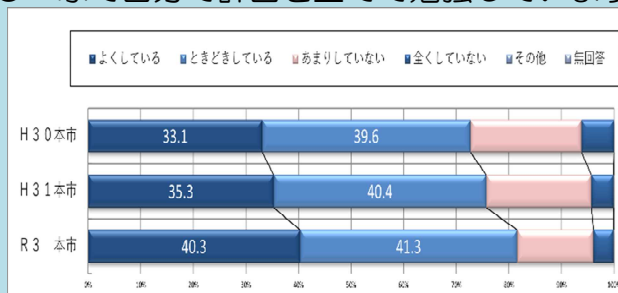
肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

※（ ）内は、肯定的な回答をした児童の割合

- 朝食を毎日食べていますか（93.2%）
- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか（90.3%）

肯定的な回答が特に増加傾向にある質問項目

- 家で自分で計画を立てて勉強していますか（学校の授業の予習や復習を含む）



詳細は、「報告書」の5 児童生徒質問紙調査結果の課題の改善策3 P28へ

④「コロナ禍における学びを止めない対応」について

分析結果

- 4 質問項目中、肯定的な回答が高い割合を示した質問項目はありませんでした。一方、1 項目「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」において、肯定的な回答が低い割合を示しました。

肯定的な回答が全国の数値を上回った質問項目

※（ ）内は、全国との差

- 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか（4.4）

詳細は、「報告書」の5 児童生徒質問紙調査結果の課題の改善策4 P30へ

(6) 中学校

①「学びを深める授業づくり」について

分析結果

- 各教科の調査時間の適切性に関わる質問項目を除き、39質問項目中、15項目において肯定的な回答が高い割合を示しました。一方、「1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」などの10項目において、肯定的な回答が低い割合を示しました。
- 3年間の経年比較では、6項目において肯定的な回答が増加傾向にありました。一方、肯定的な回答が減少傾向にあった質問項目は、ありませんでした。
- 正答数の多い生徒は、質問の「1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う」、「1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」の割合が高い傾向にあります。

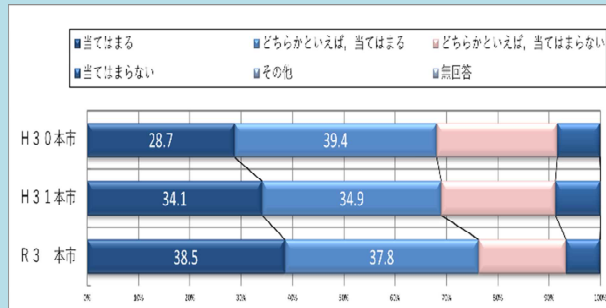
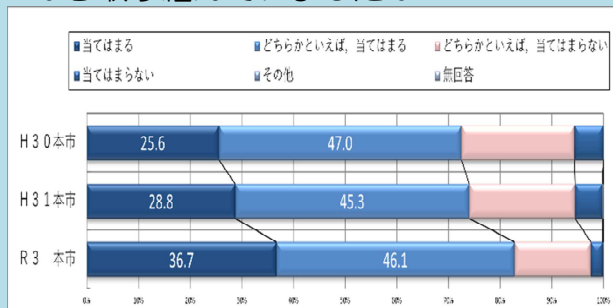
肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

※()内は、肯定的な回答をした生徒の割合

- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか (96.6%)
- 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか (95.0%)

肯定的な回答が特に増加傾向にある質問項目

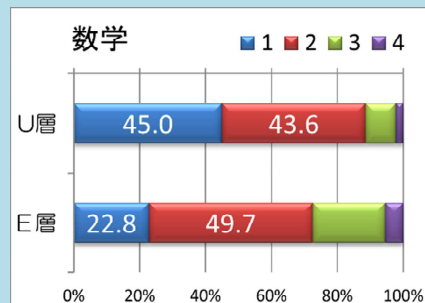
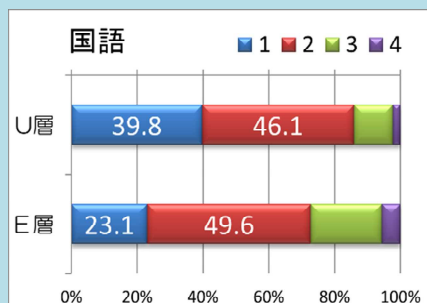
- 1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか
- 数学の授業の内容はよく分かりますか



正答数の多い児童（U層）とそれ以外の児童（E層）とのクロス集計

- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない



詳細は、「報告書」の5 児童生徒質問紙調査結果の課題の改善策1 P22へ

②「落ち着いた学級づくり」について

分析結果

- 11 質問項目中、5 項目において肯定的な回答が高い割合を示し、肯定的な回答が低い割合を示す項目はありませんでした。
- 3 年間の経年比較では、肯定的な回答が増加傾向、減少傾向にある項目はありませんでした。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

※（ ）内は、肯定的な回答をした生徒の割合

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか（98.5%）
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか（95.4%）

詳細は、「報告書」の5 児童生徒質問紙調査結果の課題の改善策2 P26へ

③「望ましい学習習慣づくり」について

分析結果

- 13 質問項目中、4 項目において肯定的な回答が高い割合を示しました。「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」などの3 項目において、肯定的な回答が低い割合を示しました。
- 3 年間の経年比較では、3 項目において肯定的な回答が増加傾向にありましたが、1 項目「新聞を読んでいますか」において、肯定的な回答が減少傾向にありました。

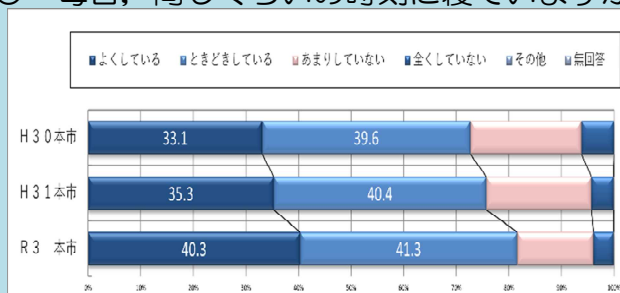
肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

※（ ）内は、肯定的な回答をした生徒の割合

- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか（92.9%）
- 朝食を毎日食べていますか（91.1%）

肯定的な回答が特に増加傾向にある質問項目

- 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



詳細は、「報告書」の5 児童生徒質問紙調査結果の課題の改善策3 P28へ

④「コロナ禍における学びを止めない対応」について

分析結果

- 4 質問項目中、肯定的な回答が高い割合を示した質問項目はありませんでした。一方、「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」などの2 項目において、肯定的な回答が低い割合を示しました。

肯定的な回答が全国の数値を上回った質問項目

※（ ）内は、全国との差

- 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか（6.6）

詳細は、「報告書」の5 児童生徒質問紙調査結果の課題の改善策4 P30へ

5 児童生徒質問紙調査結果の課題の改善策

課題の改善策 1

学びを深める授業づくり

タブレット端末などのICTを活用した授業改善の在り方

質問紙調査における児童生徒の回答状況等：ICTを活用した学習状況

- 「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達〔生徒〕と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」の質問項目においては、週1回以上との回答が、小学校では59.5%（全国比20.5）、中学校では42.9%（全国比8.1）でした。小中ともに全国を上回る結果となりました。
- 学校、または担任によって、活用状況に差が出ないように取組を進めていくことが大切です。



「タブレット端末が整備されたけど、先生方はどれくらいの頻度で使っているのかしら。」
「どんな時に、どんなふうに活用しているのかしら？」

こんなふうに思うこと、ありませんか？



情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力で、各教科等の特質を生かし教科横断的な視点から育成を図ることが求められており、『主体的・対話的で深い学び』へとつながっていくことが期待されています。

旭川市では、「旭川市学校教育情報化推進計画」において、ICTを効果的に活用した学習場面の分類例を次のように示しています。

学習場面に応じたICT活用の分類例



1 一斉学習（教師による教材の提示）

- 学習活動の焦点化のため、主に教師による効果的な学習課題の提示を工夫します。

児童生徒に分かりやすく教材を提示したいな。



学習場面（一斉）【教員による教材の提示】

- ・画像や音声などを拡大したり書き込みしたりしながら提示する。
- ・動画や音声を含むデジタル教科書等を提示する。

こんな効果が期待できます！

- ◇学習課題等の効果的な提示・説明
- ◇興味・関心の喚起
- ◇学習課題の理解

それなら、指導者用のタブレット端末でデジタル教材等を大型テレビなどに映して提示すると効果的です。各教室や特別教室など、校内のICT環境を整えていくことも大事ですね。



2 個別学習

- 知識・技能を習得したり、情報を主体的に収集・判断したりする力等を身に付けるために、各自のペースで継続的に学習を進めます。

個の課題に応じて学習を進めたいわ。



学習場面（個別）- 1 【個に応じた学習】

- ・発音・朗読・演奏などの活動の様子を記録・再生して、自己評価に基づく練習を行う。
- ・習熟の程度に応じたドリル等のデジタル教材を用いる。

- ◇知識・技能の習得や向上

何を目的にICTを活用しますか？



それなら、タブレット端末の機能にある「カメラ」や「ボイスメモ」を使うと効果的です。自身の活動の様子を記録して振り返りながら学習を進められます。また、オンラインの学習ドリル教材も有効に活用できるとよいですね。



情報収集や観察などの充実を図りたいな。



学習場面(個別)-2【調査活動】

- ・タブレット端末等を用いて写真・動画等の詳細な観察情報を収集・記録・保存する。
- ・インターネットやデジタル教材を用いたり、専門家とつないだ遠隔学習を実施したりする。

◇新たな気づき

◇情報を主体的に収集・判断する力の向上



それなら、Webページを見ることができる「Google Chrome」を使うと効果的です。調べ学習をする時に、文字や音声により検索ワードを入力することで必要な情報を収集することができます。



個別学習の活用場面は、上記に示した他にも【思考を深める学習】や【表現・制作】、【家庭学習】に細分化されていますので、次のURLから「旭川市学校教育情報化推進計画」の第3章ICTを活用した学習場面及び授業例を参照してみてください。

3 協働学習

○多様なものの見方を身に付けたり、思考を深めたりするために、目的をもち協働して活動する場面を設定します。

ICTを活用して協働する**目的**は何ですか？



考えを伝え合ったり、話し合ったりしたいわ。



学習場面(協働)-1【発表や話し合い】

- ・タブレット端末等を用いて、個人の考えを整理して伝え合う。
- ・テキストや動画で表現や考えを記録・共有し、何度も見直ししながら話し合う。

◇思考力や表現力の育成

◇新たな表現や考えへの気づき



それなら、「Google Classroom」を使うと効果的です。実際の教室同様、先生や児童生徒でコミュニケーションを取ることができます。課題の配付、提出、返却などがオンラインで完結するので、学習の進捗状況も把握できます。



意見や考えを共有しながら学習を進めたいわ。



学習場面(協働)-2【協働での意見整理】

- ・学習課題に対する互いの進捗状況を把握しながら、活動を進める。
- ・複数の意見・考えを書き込むなどして、互いの考えを視覚的に共有する。

◇意見交流の活発化と思考の深まり

◇議論の深まりと課題に対する意見整理



それなら、手書きが可能な電子ホワイトボード「Jamboard」を使うと効果的です。よく使われる機能としては、①手書きをする、②文字や図を差し込む、③付箋を貼る、などが挙げられます。



協働学習の活用場面は、上記に示した他にも【協働制作】や【学校の壁を越えた学習】に細分化されています。個人学習の活用場面同様、「旭川市学校教育情報化推進計画」の第3章ICTを活用した学習場面及び授業例を参照してみてください。

こちらのURLやQRコードから、「旭川市学校教育情報化推進計画」の掲載ページに移動することができます。是非ご覧ください。

https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/800/816/825/d073074_d/fil/kyouikujoyouhoukakeikaku.pdf



活用場面を考えたICTの効果的な利活用

- 「一斉学習」の場面で、児童生徒に学ぶことへの興味や関心をもたせたり、学習の見通しをもたせたりすること。
- 「個別学習」の場面で、自分の必要な情報を集めたり、自分自身の学習状況を把握したり振り返ったりしながら学習を進めること。
- 「協働学習」の場面で、見方・考え方を働かせながら自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて考えを伝え合ったりすること。



『主体的・対話的で深い学び』へとつながります！



効果的にICTを活用できると、授業改善につながりそう！

本資料で示したのは、ほんの1例です。先生方の様々なアイデアによりICTを効果的に活用することで、「主体的・対話的で深い学び」へとつながっていきます。

※「主体的・対話的で深い学びとは」及び「主体的な学び・対話的な学び・深い学びを実現する授業改善の視点」については、次のURLから、「平成30年度全国学力・学習状況調査 指導の改善策 学習習慣・生活習慣編」をご覧くださいと参考になります。

[h30gakusyuuseikatukaizen.pdf \(city.asahikawa.hokkaido.jp\)](http://h30gakusyuuseikatukaizen.pdf(city.asahikawa.hokkaido.jp))



ICTを目的や場面に応じ効果的に活用し、授業改善を図りましょう。

コラム1

ICTの活用に当たっては、適切かつ効果的に活用するための留意点を一つ一つ確認しておくことが大切です。例えば、タブレット端末を使用する際、次のようなことができるよう児童生徒への指導が必要です。

心身の健康への影響を考え、自ら判断し活用できる態度の育成



教師は、健康面への配慮として、長時間使用の際は、30分に一度目を休ませるなど、目の疲労や姿勢の悪化への影響などについて留意して指導する必要があります。



情報を正しく安全に利用することができる態度の育成

教師は、児童生徒がトラブルに巻き込まれないよう、情報モラル教育の充実に努めることが重要です。特別の教科道徳はもとより、教科横断的に、適切に情報を扱おうとする態度を育成しましょう。

コラム2

タブレット端末を活用する上で、タイピングをする力は欠かせません。

文科省の資料では、小学生で、10分間に200文字程度の文字を入力することができること（6年生までに）、中学生で、10分間に300文字程度の文章が正確に入力・編集することができることが目安とされています。

例えば、朝の時間や学習活動の中で、1日1回はタイピングをする機会を、継続的に設けてみてはどうでしょうか。

コラム3

タブレット端末などのICTを指導に取り入れるだけでは、必ずしも情報活用能力が育成されたり、教科等の指導が充実したりするわけではありません。各教科等の特質やICTを活用する利点などを踏まえて、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。授業の目的を達成するための一つの手段として、ICTを効果的に活用しましょう。



(参考資料)

【本市のタブレット端末で使用可能な授業等で活用できる「アプリ一覧・主な活用場面」】(50音順)

アプリ名 活用内容	主な活用場面	アプリ名 活用内容	主な活用場面
あそんでまなべる世界地図パズル  ジグソーパズル感覚で世界の国が覚えられるアプリで、地域や分野を選択して取り組むことができます。日本地図版もあります。	個別	Jamboard (ジャムボード)  デジタルホワイトボードです。ミーティングなどで書き込んだ内容を共有したり、協働で意見をまとめたりすることのできるアプリです。	一斉 個別 協働
GarageBand (ガレージバンド)  音楽制作アプリです。簡単に作曲を楽しむことができ、専門的な機材も必要としません。	個別	小学生手書き漢字ドリル 1026  小学校6年間の漢字全てを学習できるアプリで、1回5問、画面に指で漢字を書きます。問題文もあり、漢字の使い方や語彙の習得にも配慮しています。	個別
9×9 カード  シンプルな九九カードのアプリです。カードのタップで答えを表示、スワイプで次の問題が表示されます。	個別	新・筆順辞典  漢字の読みや筆順を調べるアプリで、指で書く、音声、キー入力等、さまざまな検索方法に対応しています。	個別
Google Classroom  児童生徒をクラスや教科ごとに管理し、資料を共有したり、課題を配信したりすることができます。	一斉 協働	ScratchJr (スクラッチジュニア)  小学低学年向けのプログラミングアプリで、指で絵を動かしたり、ゲームを作ったりしながら操作に慣れます。	個別
Google Chrome  Webページを見るためのブラウザアプリです。Web検索で調べ物がしたい時に活用できます。	個別	星座早見AR  星空にスマートフォンを向けるとその方位にある星座の名前や位置を調べたり、星座のエピソードや時間毎の変化、星座の検索ができたりします。	個別
Google スプレッドシート  表計算アプリです。同時編集も可能で、他の Google アプリとの連携もできます。	一斉 個別 協働	CheckMath (チェックマス)  解答済みの計算ドリルを写真に撮ると、採点して間違えているところを表示してくれる、四則演算解答サポートアプリです。	個別
Google スライド  プレゼンテーションアプリです。調べた内容をまとめて発表したり、グループで同時編集して作成したりすることもできます。	一斉 個別 協働	中学歴史 完全記憶  中学歴史の重要項目が時代毎に一問一答の形式となっています。忘れやすい時期を判断し、効率よく復習させてくれます。	個別
Google Drive  オンラインストレージサービスのアプリです。PDFファイルや画像・動画などを保存したり、ファイルを共有したりすることができます。	一斉 個別 協働	ディズレクシア音読指導アプリ  文字の読み書きを苦手としている子どもへの読解指導アプリで、子どもが指導者や保護者と一緒に取り組む形式です。	個別
Google 翻訳  入力された文字や音声、カメラが読み取った言語を瞬時に他の言語に翻訳します。二言語同時通訳の機能も有します。	個別 協働	micro:bit (マイクロビット)  25個の赤色LEDに文字などのプログラミングしたものを表示できるプログラミング教育用アプリです。	個別 協働
Kocri (コクリ)  ハイブリッド黒板アプリです。作成したスライドをワンタッチで共有することができ、問題作成や、回答の集約・分析なども簡単、迅速に行えます。	一斉 個別	Meet  ビデオ会議をする際に使用します。Google Workspace for Education で一度に参加できる人数は最大100名です。	個別 協働

他にもプログラミング学習アプリや Google のアプリもあります。

課題の改善策2

落ち着いた学級づくり

隠れたカリキュラムを意識した人間関係づくりの進め方

質問紙調査における児童生徒の回答状況等：挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

- 「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問項目においては、中学校で全国を上回りましたが、小学校で全国を下回りました。
- 児童生徒が、自信をもって自分の考えを伝えたり、互いの考えを深めたりするには、安心して自分の考えを表現できる落ち着いた学級づくりが大切です。



取り組む前から諦めていたり、「できるかな…」と、自信のなさそうな様子が見られたりするなあ。



こんなこと、ありませんか？

児童生徒が、自分の言葉で表現し、多様な考えに触れながらその価値に気付くようにするためには、授業や学校生活の様々な場面で、児童生徒にプラスの影響を与える教師の言動や関わり方が重要です。

児童生徒にプラスの影響を与える隠れたカリキュラム

1 隠れたカリキュラムの理解

- 学校では、教科指導や生徒指導などの他に、教師が無意識のうちに、児童生徒に影響を与えていることがあります。教師は、こうした「隠れたカリキュラム」が学習環境や教育活動のあらゆる場面に存在していることを理解することが大切です。

「隠れたカリキュラム」とは

- 「潜在的カリキュラム」ともいいます。
- 一般的に「教師が意図も意識もせずに教え続けている教育内容」のことを表します。
- 例えば、教師の表情や言動・服装、教室環境、学校風土などがあります。
- ネガティブなものとポジティブなものがあります。

ヒドゥンカリキュラムとも言われています。



2 隠れたカリキュラムが与える影響

- 隠れたカリキュラムには、児童生徒にネガティブな影響と、ポジティブな影響をもたらすものがあります。

ネガティブな隠れたカリキュラムには

- ▲教師が時間を守らない。 → 児童生徒は、時間を守らなくてよいと思う。
- ▲教室が雑然としている。 → 児童生徒は、乱れた環境でも気にならなくなる。
- ▲忘れ物をしても注意しない。 → 児童生徒は、忘れ物をしてもよいと思う。

ポジティブな隠れたカリキュラムには

- 教師の表情が明るい。 → 児童生徒の表情も明るくなる。学校が楽しくなる。
- 正しい書き順で丁寧に書く。 → 丁寧な文字を書くように意識するようになる。
- 提出物の提出期限を徹底する。 → 約束は守るものだという意識が身に付く。

3 隠れたカリキュラムを意識した指導

教師が発するポジティブな隠れたカリキュラムの例

○児童生徒の表情や雰囲気をも素早く察知し、ポジティブな隠れたカリキュラムを意識した教師の学級は、落ち着きがあり、児童生徒は安心して過ごすことができます。

【学級全体への対応例】

- ①落ち着いた声で話す。
- ②教室がきれいに片付いている。
- ③掲示物には児童生徒の良いことを書く。
- ④児童生徒の失敗をフォローする。

【児童生徒への対応例】

- ①笑顔で過ごす。
- ②児童生徒と同じ目線に立つ。
- ③正対せず、横から言葉をかける。
- ④一人一人を大切に思っていることを伝える。

児童生徒に主体性を育む隠れたカリキュラムの例

例えば、清掃活動の際に児童生徒から

「先生、～がうまくいかないのですが、どうしたらいいですか？」

①具体的に示す

「それは、こうしましょう。」

↓このような対応を重ねていくと、児童生徒にどのような影響を及ぼすでしょうか。↓

「先生に聞けば、すぐに解決できる。」
「考えていなくても、助けてもらえる。」

「受け身」の姿勢につながる可能性

どのような対応が考えられるでしょうか。と、相談されました。

②考えを尋ねる

「どうしたらよいと思いますか？」

「自分で考えてから相談しよう。」
「自分で方法を考えてみよう。」

「主体性」を育むプラスの可能性

もちろん、状況に応じて的確な指示を出すことが必要な場合もありますが、上記のように、教師の対応によって、児童生徒への伝わり方や、与える影響が異なることを教師が意識することが大切です。



教師自身が「どのような言動をとると、よりよい教育効果につながるか。」を考え、意図的に対応を変えることが、児童生徒へのポジティブな影響につながります。

コラム

落ち着いた学級づくりに向けた取組例

「中学校区における統一した指導」 平成30年度 課題の改善策2より

落ち着いた学級づくりのためには、中学校区内で小・中学校の教師が、それぞれの学校の学習のきまりについて理解し、小中の接続を意識し、統一した指導をすることが大切です。

「『ほっと』の活用」 平成31年度 課題の改善策4より

よりよい人間関係づくりには、多角的・多面的で客観的に集団の傾向をとらえ、理解する資料として「子ども理解支援ツール『ほっと』」を活用するなど、児童生徒理解に努めることが大切です。

「全校で統一した教室環境の整備」 平成31年度 課題の改善策5より

児童生徒が集中して学習に取り組むためには、全校で統一することの意義を職員間で共有し、担任・担当が変わっても同じように教室環境を整備することが大切です。

課題の改善策3

望ましい学習習慣づくり

メディアの接触時間を減らし、計画的な自主学習を促す指導の在り方

質問紙調査における児童生徒の回答状況等：基本的生活習慣等、学習習慣・学習環境等

○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含みます。）」の質問項目においては、小中ともに、全国の数値を上回りました。しかし、「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか。」の質問項目においては、1時間以上していると回答した児童生徒が小学校では全国の数値を上回り、課題と考えました。また、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。）」の質問項目においては、30分以上していると回答した児童生徒が、中学校では全国の数値を上回りましたが、小学校では下回りました。

○自主学習に計画的に取り組ませるためには、家での生活を見直し、児童生徒の自主学習への取組の意欲を高めることが大切です。



「なかなか、自主学習に取り組めない子どもがいるけど、家での生活に問題があるのかしら。」「もっと意欲的に取り組ませるにはどうしたらいいの。」



こんなこと、ありませんか？

見通しをもって計画的に自主学習に取り組ませるためには、自主学習の計画を児童生徒自身に立てさせる以外に、

①家での生活の仕方を見直す ②よい取組を認め、取組の意欲を高める
などの指導を行うことが大切です。

家庭における生活の仕方の見直し～アウトメディア～

1 「アウトメディア」に取り組む

○家庭における落ち着いた学習ができる環境を整えるために、児童生徒の発達段階や実態に応じて、学校全体で「アウトメディア」に取り組んでみましょう。

「アウトメディア」とは

電子メディアに接触する時間を減らすことを言い、電子メディアを排除するものではありません。電子メディアに上手に触れることで過度の接触を減らし、自分自身の時間・家族との団らん・人と人とのつながりの時間を大切にしようというものです。

「アウトメディア」における「電子メディア」とは

電子メディアには様々ありますが、児童生徒の家庭における学習との関わりが深い物として、テレビ、ビデオ、テレビゲーム、携帯用ゲーム、インターネット、携帯電話（スマートフォンなど）が考えられます。

2 「対象」「期間や頻度」「取組の主体」を決める

①電子メディアの対象

例 A：ゲームのみ
B：インターネット
C：全ての電子メディア 等

②期間や頻度

例 A：夏季・冬季休業中
B：毎月第1、3日曜日
C：テスト期間前2週間 等

③取組の「主体」

例 A：全て教師が企画
B：教師が企画し児童生徒が期間や期日を設定
C：生徒会等が主体となり、企画や呼び掛けを実施 等

中学校では、生徒主体の取組にできるといいですね。



自主学習への取組意欲の向上

○児童生徒の自主学習への取組意欲を向上させるためには、取組後のテストの成績（成果）だけでなく、取組の努力（過程）を認めることが大切です。

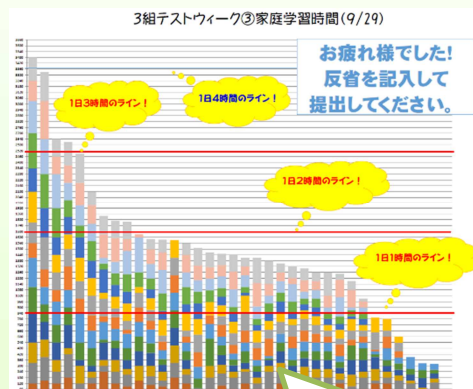
1 学級全体の努力を視覚化する



自主学習を全員提出すると、ビー玉をパイプに入れていきます。

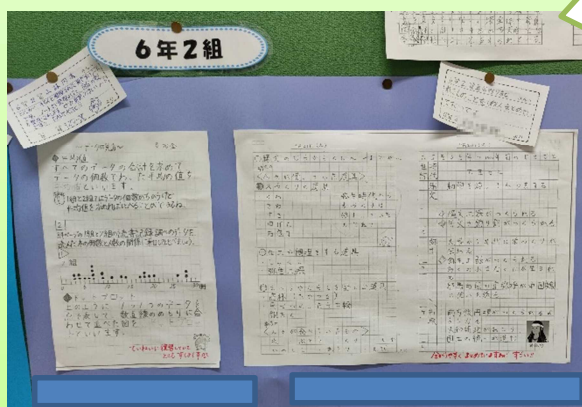


1冊最後まで終わった自主学習ノート（コピー）を積み上げていきます。

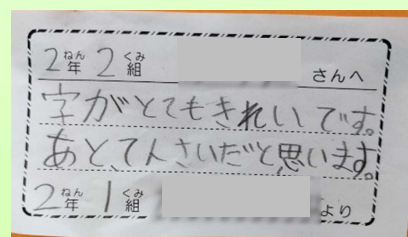


自主学習の時間をグラフに表し、生徒の取組状況を視覚化します。

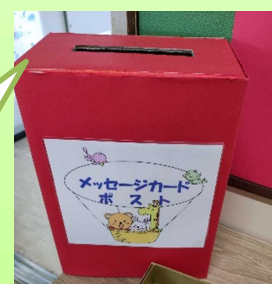
2 好事例紹介や相互評価をする



各学級の自主学習ノート（コピー）を廊下に掲示します。



友達の取組に児童がカードでコメントを書きます。



学校と家庭で連携し、家でのメディアの接触時間を見直したり、自主学習の頑張りを認めたりすることで、自主学習を計画的、効果的に取り組ませることができます。

コラム

「L S (Life&Study) プランチェックシートⅡ」について

本改善策で紹介した「アウトメディア」の取組を進めるに当たり、児童生徒が自分の生活を見直したり、自分で学習の計画を立てたりする際に活用できるプリント「L S (Life&Study) プランチェックシートⅡ」を作成しました。

このプリントは、平成31年度の「課題の改善策6」で示したプリントを一部改訂したものです。「L S (Life&Study) プランチェックシートⅡ」は、別冊「旭川市学力向上学習プリント集」に掲載しておりますので、御活用ください。

課題の改善策4

コロナ禍における学びを止めない対応

オンラインによる授業を通して学びの保障を実現するための事前準備

質問紙調査における児童生徒の回答状況等：新型コロナウイルス感染症の影響

- 「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」の三つの質問項目において、小中ともに全国を下回りました。
- 休校の場合でも、規則正しい生活を送り、不安なく計画的に学習に向かうことができるよう、学校は事前の準備を進めておく必要があります。



「タブレット端末は整備されたけれど、オンラインによる授業なんてできるのかしら。」
「オンラインによる授業をするためには、どんな準備をしておく必要があるのかしら。」

こんなこと、
ありませんか？



質問紙からは、休校期間中は勉強について不安を感じるだけではなく、規則正しい生活や、計画的に学習を続けることが困難になったことが分かります。
学校は、子どもたちが安心して学ぶことのできる環境を整えることが求められています。

コロナ禍においても学びを止めないための準備

1 タブレット端末を貸し出す際に、必要な手続を整理する

- 感染症等による学級閉鎖などは突然起こるものです。いつでも対応できるように、校内で必要書類や対応手順など情報共有しておくことが大切です。
 - ・「保護者向け 旭川市小・中学校貸出端末マニュアル」(R3.4.7 事務連絡)の配付
 - ・「オンライン学習実施に向けたチェックリスト」(R3.5.19 旭教学第108号通知)の活用
 - ・「情報機器の貸出しをご希望される保護者の方へ」,「情報機器借用についての注意事項」,「情報機器借用申請書兼同意書」(R3.3.31 旭教学第417号)の配付

2 オンラインによる授業を行った際に、起こりうる事案を想定する

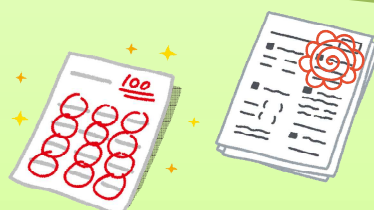
- 家庭のWi-Fiにつながらない、ビデオ会議システムに入ることができない、音声途切れてしまうなど、教室とは環境の違う家庭での活用は、トラブルが必ず起きると考えておく必要があります。トラブルを予想しておき、どのように対応していくかをあらかじめ想定しておくことで、迅速に対応できます。

- ・接続できない
- ・音が聞こえない
- ・文字が読めない
- ・アプリが起動しない

など

どのように対応するのか
準備しておくことが大切
です。

タブレット端末の貸出を希望しない家庭もあります。そのような場合も、学びの保障を担保するため、プリントでの学習支援などを行う必要があります。柔軟に対応できるように準備を進めましょう。



3 タブレット端末を操作する基本的なスキルを身に付ける

例：タブレット端末を通して、朝の会などで操作の練習をする

- 担任は、Classroom から、文字を通して指示を出したり、ビデオ会議システム（Meet、Zoom など）の画面を通して児童生徒と挨拶をしたりする。
- 学級内で接続の練習する際には、全員の端末から同時に音が出てしまうのでイヤホンを使うことも考えられる。
- Classroom から、文字を通して指示を受け取る。
- Classroom からビデオ会議システムに入ることができる。ビデオ会議システムの中では、最初はマイクをミュートにすることを基本にする。



担任の先生は別教室からビデオ会議システムに入り指示を出しましょう。教室には担任以外の教員が入り、児童生徒の接続をサポートしましょう。



例：Classroom の中で学習内容を示し、授業を進める

- 担任の先生は、朝学習の指示を書き込む。子どもたちは、毎朝その指示を確認することを習慣とする。
- 子どもたちは、担任からの指示に対して、「クラスのコメントを追加」の欄に返答することができる。

子どもたちは、毎朝 Classroom にある先生からの指示を読みます。読んだことを確認する意味で「分かりました。」などと返答します。基本的な操作を繰り返し行うことで、子どもたちに必要なスキルを身に付けさせることができます。



教室の中で操作の練習を積み重ねることや、事前に準備を進めることで、突然の端末貸出や課題プリントの配付など落ち着いて対応することができます。

コラム

学校全体の取組とするには

新しいことを始める際にはしっかりと事前の準備と組織としての動きが必要です。取組が達成できるよう、GIGAスクール推進委員会などの組織を立ち上げ、学校全体で計画的、継続的に推進することが肝要です。

実際にオンラインによる授業をする際には

複数の学級、学年が閉鎖し、オンラインによる授業をする対象が多くなった場合は、通信速度の安定やトラブル対応のために、学級・学年によって実施時間帯を変えるなどの工夫が必要です。

分かりやすい授業を展開するには

子どもたちに話しかける場合は、ゆっくりと短い言葉で話すことが、分かりやすさにつながります。また、音声が届かないことも想定し、カメラの前でホワイトボードなどに文字を書いて情報を伝えるなどの工夫が必要です。

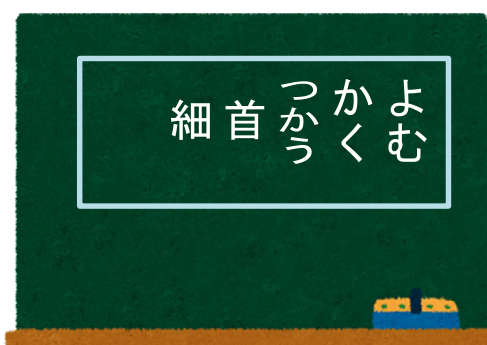
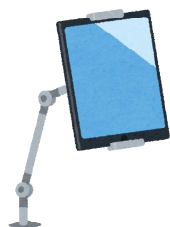
4 オンラインによる授業の一日の流れを計画する（例）

8:15～ 8:30	接続確認	Classroom へ入る ビデオ会議システムに参加する
8:30～ 8:45	朝の会	健康観察を兼ねた出席確認
8:50～ 9:20	1 時間目	• Classroom からの学習指示 →教科書，ノートの利用 • ワークシートの配信 回答の配信 →答え合わせ • NHK for School の視聴 • オンライン学習システムでの学習 等
9:25～ 9:45		• 教科書やプリント，ドリル等を利用した自主学习
	(10 分休憩)	
9:55～10:15	2 時間目	• Classroom からの学習指示 →教科書，ノートの利用 • ワークシートの配信 回答の配信 →答え合わせ • NHK for School の視聴 • オンライン学習システムでの学習 等
9:55～10:15		• 教科書やプリント，ドリル等を利用した自主学习
10:20～10:30	終わりの会	以後の時間の使い方の指導や学習課題の指示 翌日の接続時刻の確認 等

ポイント

画面に映る範囲を事前に確認しておく。

教師側のタブレット端末のカメラで、撮影できる範囲を事前に確認することで、板書等が見えにくいなどのトラブルを未然に防ぐことができます。



ポイント

健康面に配慮し運動不足解消を促す。

健康面への配慮として、タブレット端末に向かう時間を制限し、目を休めたり、運動を促したりすることも大切です。



オンラインによる授業実施までの流れ（例）

事前

学校等での ICT 環境に関する準備

- 機材の準備
 - ・タブレット端末
（指導者用，学習者用）
 - ・実物投影機，大型提示装置など
- 円滑な通信環境の確保
（接続時間帯の工夫など）
- ビデオ会議システムなどの設定
- 接続テストの実施

家庭での準備

- ルールやガイドラインの策定
- 自宅等の通信環境の把握
- 通信環境が整っていない家庭への Wi-Fi ルーターの貸与
- タブレット端末の持ち帰りによるオンラインによる授業の事前指導



臨時休業（学年・学級閉鎖）決定

臨時休業における指導計画等を踏まえた学習指導，学習状況の把握

臨時休業・閉鎖期間

オンラインによる授業の準備

- ・授業内容の検討
- ・接続テスト
- ・接続できない家庭への連絡
- ・端末・Wi-Fi ルーターの貸出

臨時休業の決定が放課後や土日の場合…。

- ・タブレット端末の貸出の指示
（翌日，児童生徒玄関で配付するなど）
- ・時間割の配付



オンラインによる授業の実施

- ・朝の会（ホームルーム）による児童生徒の健康状態の把握
- ・指導計画を踏まえた学習指導（オンラインによる授業）の実施
- ・デジタル教材，学習動画等を活用した家庭学習



事後

事後の対応

- ・児童生徒の学習状況を適切に把握し，必要に応じて一斉・個別指導
- ・学習の振り返りなど



おわりに

「調査結果報告書・指導の改善策」,「旭川市学力向上学習プリント集」及び「児童生徒質問紙調査の分析及び分析結果」は、次の皆様に御協力いただき、作成しました。

御協力いただきました旭川市授業力向上プロジェクト各チームの皆様に心から感謝を申し上げます。

旭川市授業力向上プロジェクト 国語チーム

委員長：千葉 昌之（知新小校長）
副委員長：成田 麻友子（旭川中教頭）
委員：石川 憲一（大有小主幹教諭）
岩城 卓也（明星中教諭）
狩集 慶一（緑が丘中教諭）
椎名 俊文（神楽中教諭）
嶋田 剛（神居中教諭）
西山あずさ（永山西小教諭）
渡辺 恭平（大有小教諭）

算数・数学チーム

委員長：千葉 雅樹（広陵中校長）
副委員長：武田 要（永山小教頭）
高綱 智美（春光台中教頭）
委員：岡田 哲（緑が丘中主幹教諭）
萬宮 淳（愛宕小主幹教諭）
櫻井 里佳（知新小教諭）
須郷 純弥（北鎮小教諭）
中佐藤一徳（北門中教諭）
沼澤 和範（中央中教諭）
花本 明典（永山西小教諭）
早川 裕章（神居東中教諭）
廣野 裕介（緑が丘中教諭）

学習習慣・生活習慣改善チーム

委員長：佐藤 美鶴（東町小校長）
副委員長：齋藤 知尋（大有小教頭）
中島 圭介（神楽中教頭）
委員：蛭名 伸也（永山南中主幹教諭）
太田 貴幸（忠和小主幹教諭）
千葉 操（東五条小主幹教諭）
馬場 大輔（神居東小主幹教諭）
榊本 智史（西御料地小主幹教諭）
村田 靖彦（愛宕中主幹教諭）
澁谷 朋美（神居中教諭）

（五十音順，敬称略，職名は令和３年１２月現在）

この他，本調査結果報告書等の全般にわたり，旭川市教育委員会において以下の者が担当した。

品田 幸利	旭川市教育委員会学校教育部長
辻並 浩樹	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課長
末木 良典	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主幹
白石 真	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課長補佐
常盤 慎一	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課長補佐
秋元 秀夫	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課長補佐
忠海 盛弘	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課長補佐
竹中 一三	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主査
角地 祐輔	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主査
小山和歌子	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主査
上田 達也	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主査
柳澤 麻弥	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主査
五十嵐 敬	旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主査